



<稲穂のついた稲>

人生に花を咲かせる根っこの育て方

校長 坂口 栄二

2学期、スタート

今年は、例年より1週間早く2学期がスタートしましたが、子どもたちは明るく元気に登校してくれました。とてもうれしいことです。

夏休みは短くなりましたが、子どもたちは、様々なチャレンジをしてきてくれたようです。どんなチャレンジをしてきたか聞くのが楽しみです。

さて、今年の夏は猛暑・酷暑と言われ、とても厳しいものがありました。熱中症などに気をつけながら生活しなければなりませんでした。



そんな中、今年も高校野球が盛り上がっていました。猛暑・酷暑もなんのその、高校球児たちは感動のある試合を繰り広げてくれました。

出場49校のうち一番に今大会出場を決めたのが沖縄の興南高校でした。興南高校は平成22年に春と夏の大会で優勝した史上6校目の春夏連覇した高校です。その時の監督でもある我喜屋優監督は名将と呼ばれています。

平成22年春の大会で優勝した翌日、桜の木の下で我喜屋監督は生徒たちに次のような話をしたそうです。

甲子園優勝という花を咲かせたのは事実だ。花を咲かせたのは枝があるから。枝を支えているのは幹である。そのすべてを支えているのは目に見えない根っこだよ。甲子園優勝が花ならば普段の生活態度や練習が根っこだ。花はいつかは散る。でも根っこがちゃんと育っていればまた美しい花が咲く。

優勝に浮かれることなく、夏に向け根っこを育てるべく新たなスタートを切り、見事に夏の大会も優勝することができました。

しかし、我喜屋監督が野球部の監督に就任した当時、野球部は決してよい状態ではありませんでした。部屋は汚れ、生徒たちは朝寝坊をし朝食もとらない。約束を守れない生徒もたくさんいました。

そこで監督は生徒の根っこを育てるために、以下のことに取り組みせました。

それは、①時間を守る。②早寝早起きをする。③食事は残さない④大きな声であいさつする⑤整理整頓をする。⑥自分の意見を自分の言葉で伝える。⑦人に感謝する。などです。



どれも一見野球とは関係がないことのように思えますが、人としてやって当たり前のことであり、とても大切なことです。人としての根っこを育てることができ、チーム力が上がることばかりです。

たとえば「①時間を守る」。だれか一人が集合時間を守らなければミーティングを始められません。そういうことが続けばチームワークが乱れていきます。

「⑤整理整頓をする」しっかり整理整頓できる人は細かいことに気がつくことができます。すると、話をきちんと聴けたりサインをしっかりと見たりすることができます。逆にならぬように落ちているごみを拾わず片づけをしない人は、「おれには関係ない」と言って人のカバーをしないので、チームとして戦うことができません。

監督は言います。「野球に取り組んだ三年間で花が咲かなくてもよい。これからの長い人生で花を咲かせればよい。野球部はそのための根っこ作りの場なのだ。」

小学校もまた、人生に花を咲かせるための根っこ作りの場であると考えます。

子どもたちの人生に大きな花を咲かせるために、目に見えない根っこを育てたいと思います。二学期も、やって当たり前のことをしっかりできる子を育てる教育を進めます。保護者、地域の皆様にも、ご支援、ご協力をお願いいたします。